

## 「性的少数者の人権 LGBTQ」

最近、テレビなどのメディアで「LGBTQ」という言葉を聞くことが増えてきました。性的マイノリティ(少数派)をあらわす言葉の一つで、さまざまな単語の頭文字によって構成されています。

L：レズビアン(女性の同性愛者)、G：ゲイ(男性の同性愛者)、B：バイセクシュアル(両性愛者)、T：トランスジェンダー(心の性別と体の性別が違う人、性別に違和感をもつ人)

そして、最後のQは「LGBT」だけで表現できない様々な性があることを表しています。

例えば、恋愛対象として好きになる性がないという人や、自分の性別を決めていない、または男女どちらでもあると感じている人、自分の性を決められない、または迷っている人など、数えきれないほどの形があります。

LGBTQについて考えるとき、もっとも重要なポイントが「性自認」と「性的指向」です。

「性自認」とは、自分の性をどのように思っているのかということ。「こころの性」と呼ばれることもあります。生まれた時の体の性とこころの性は必ずしも一致するわけではなく、中には男性、女性の区別に悩む人もおられます。

次に、性的指向。こちらは、恋愛対象としての好意がどういった人に向いているのか、という言葉です。必ずしも恋愛対象が異性であるとは限らないのです。同性を好きになる人もいれば、異性も同性も好きになる人もおられます。中には、異性も同性も好きにならないという性的指向が存在しない人もおられます。

LGBTQのような性的マイノリティを身近な存在として感じている人は、少ないかもしれません。けれども、人の性のあり方というのは目に見えるものではなく、「見えない」から「いない」と思い込んでいるだけで、実は、性的マイノリティは学校、職場、地域など、どのような場所でも、一緒に生活をしているのです。

LGBT 総合研究所が2019年に行った調査によると、性的マイノリティの割合は10%という結果が出ています。ただし、カミングアウト(公表)していない当事者が78.8%おられ、多くの方が一人で悩んでいるという事です。これは、当事者が、カミングアウトすることで周りの人との関係が壊れてしまわないかと心配されているため、誰にも言えない状況でもあります。自分の周りに性的マイノリティはいないと思っけていても、実は悩んでいる人がおられるかもしれません。これを機会に性別に対する思い込みを考え直してみませんか？

性別は単純に男女に区別するものではない、みんな違って当たり前だという意識を持つこと、ひいては自分自身も多様な性のうちの一つである、ということに気づくことが、多様な性への理解へとつながります。

